

「ヨブのつまずきから学ぶ」

ヨブ記3章11~12節

1

自分の命をのろったヨブ

- なぜ、私は、胎から出たとき、死ななかったのか。なぜ、私は、生まれ出たとき、息絶えなかったのか。なぜ、ひざが私を受けたのか。なぜ、私の吸う乳房があったのか。ヨブ3:11-12
- 私だけでは、この民全体を負うことはできません。私には重すぎます。私にこんなしうちをなさるのなら、お願いします、どうか私を殺してください。これ以上、私を苦しみに会わせないでください。」 モーセ 民11:15

2

モーセも、エリヤも、エレミヤも

- 自分は荒野へ一日の道のりを入れて行った。彼は、えにしだの木の陰にすわり、自分の死を願って言った。「【主】よ。もう十分です。私のいのちを取ってください。私は先祖たちにまさっていませんから。」
エリヤ 1列王19:4
- エレミヤ(エレミヤ20:14-15)やヨナ(ヨナ4:3、8)も

3

誤解(思い込み)による苦しみ

- 人々の誤解(思い込み)に基づく悪口、うわさによって悪者にされてしまったヨブ。
- あざけり、あざ笑い、意地悪、いじめの的となってしまった。
- 遠くから見舞いに来た3人の親友たちまで、間違った**思い込み**によってヨブをさばき、悪者にして責め立てた。
- それが3章から37章まで続く。

4

因果応報がすべてではない

- 友情も当てにならない、**人は当てにならない** ゲッセマネ
- **人の経験や知識にも限界がある**。体験談や証しにも
- 個人的な啓示や幻? 4:12-17、32:18、32-37 神が語っていない時もある。42:7
- **真理が自由にする。誤解は人々を奴隷にする、束縛する**。ヨハネ8:31-32 イエス様とみことばが真理。ヨハネ14:6、17:17

5

「理解に苦しむ」

- ヨブは理解を求めた、**理解できる神**を
- ヨブの神はヨブの理解を超えたお方だった
- 「**天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたの道より高く、わたしの思いは、あなたの思いよりも高い**。」 イザヤ55:9

6

「理解に苦しむ」

- ヨブもヨブの友達も自分たちの知識や理解で生きていたのではない。
- 知識は人を高ぶらせ、愛は人の徳を建てます 1コリント8:1
- 人がもし、何かを知っていると思ったら、その人はまだ知らなければならないほどのことも知ってはいないのです。しかし、人が神を愛するなら、その人は神に知られているのです 1コリント8:2-3

7

「理解に苦しむ」

- 「私たちは事物に基づいて行動したり、感じたりするのではなく、私たちがそうであると思込んだ事物に対する考えに基づいて行動したり、感じたりする。」
- 「人生のほとんどの不幸は、自分にかかわる事柄について、誤った考え方をすることから生じる。できごとを健全に判断することは、幸福への大きな一歩となる。」(柿谷正期)

8

「理解に苦しむ」

- 苦しみに関しては簡単な答えはない。
- 苦しみを主にしない。苦しんでいる自分も主にしない。経験も主ではない。
- つまずいたら、ひざまずいて、主に起こしていただく。
- ヨブはつまずいたけど、神に向かってつまずいた。(前方受け身) ヨハネ16:33

9

ヨブが教えてくれること

- 「思い込み」で物事を判断したり、人をさばいてはいけない。
- 人間の理解、知恵には限界がある。
- 私たちは自分の理解や知恵によって生きていたのではなく、創造者である神によって生かされている。
- つまずきそうな時は、ひざまずこう。神が起こしてくださる。

10